

みんなの好きなものな～に？

(個性の尊重)

1 第1学年（学級活動）

2 目 標

- 友達の好きなものを知ることで、一人一人の好みは男女にかかわらず多種多様であることに気づき、お互いの個性を認め合うことができるようにする。

3 目標に関する児童の実態

- 1年生児童は、様々な保育園や幼稚園から入学してきているが、入学当初から学級みんなですっかりと遊ぶことを通し、クラスの友達と仲良くなっている。休み時間には共通の興味をもった児童同士が男女を問わず集まって、自分たちの好きな遊びを楽しんでいる。

しかし、1年生では、まだ一人一人の友達の話はあまり深くは知らない。だから、自分にとっていい友達であるかどうかは分かっているが、その友達がどんな人であるかはあまり意識していない。

そこで、自分の好きなものを発表し合う活動を通し、友達の好きなものを知ることで、改めて友達について考え、自分と同じであったり違っていたりすることに気づかせることは、集団の中での望ましい人間関係を築いていく上で重要であると考えます。

性別や持ち物、外見などにとらわれないで友達がどんな人かを考え、自分自身の個性も認めていこうとする資質を養いたい。

4 指導の工夫とポイント

- 好きなものを発表することは、児童自身の考えを引き出しやすいと思われる。しかし、自分の思いがなかなか浮かびにくい児童もいる。そこで、考えをより引き出しやすいように、まず教師のことについて話すようにする。児童は担任のことについて興味が強く、教師の好きなものを聞きながら、自分自身のことと比べているであろう。また、自分と同じ思いをもっていることを知れば、より親近感が増すものと思われる。そこで、児童と違っていることと同じであると予想されることを交えて話すようにする。

- クラスにはたくさんの仲間が集まっているが、みんな違う人であるということがイメージしやすいように、事前に描かせた顔の絵を黒板に貼り、集団所属意識をもたせながら、互いの個性に気づきやすくした。また、貼るときに名前を呼んだり、「いつも元気な〇〇さん」「お手伝いをよくしてくれる〇〇さん」などとその子のよさを付け加えたりすると、より効果的である。

- ワークシートを用いることによって考える観点を示し、より多くの考えを出させて、全員の発表が板書に表れるようにする。発表内容を確認するときに、少数意見となるであろうと思われる内容を意図的に多く取り上げるようにすると、様々な個性があることに気づきやすい。

もし友達の好みを性別に照らして「変だ。」と考える意見が出た場合などは、みんなになぜそう思うのか理由を考えさせたり、本当に変なことなのかどうか改めて考えさせたりすると、個人としての多様な違いがあつていいという認識が一層はつきりする。

5 準備物

- 児童や教師が自分で描いた顔の絵
- ワークシート
- 好きなものカード

6 指導案

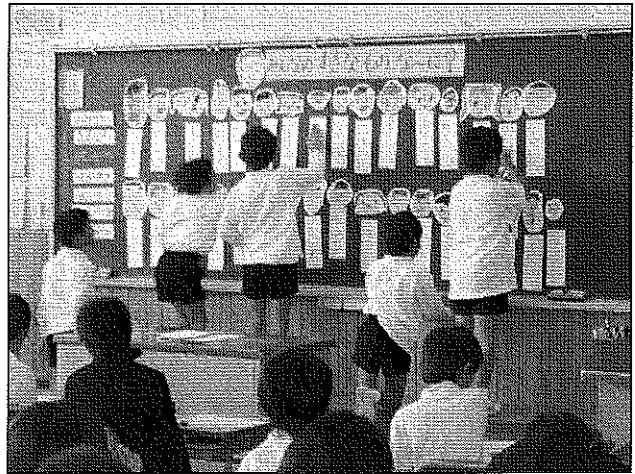
学習活動	主な発問と予想される反応	教師の支援
<p>1 黒板に貼られた顔の絵を見る。 (1) 教師の顔の絵 (2) 友達の顔の絵</p> <p>2 先生の好きなものを知る。</p>	<p>○ 先生はみなさんの先生になって、とてもうれしいです。 ○ このクラスには、33人のお友達がいます。一人ずつ紹介します。 ・はずかしいなあ。 ・うまく描いているなあ。 ・友達がたくさんいてよかった。</p> <p>○ 先生の好きなものは○○です。 ・え～、そんなのすきななの？ ・あっ、ぼくといっしょだ。 ・ふ～ん、そうだったんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板に教師の顔の絵を貼り、その周りに児童が自分で描いた顔の絵を男女を交えて貼って、集団の一員という意識を高める。 ・ 名前を呼びながら絵を貼ることにより、集団の中の自分の存在意識を高める。 ・ 後で児童が自分の考えを発想しやすいように、まず教師のことについてふれる。
<p>みんなが好きなものはなんだろう。</p>		
<p>3 自分の好きなものをワークシートに書く。 (1) 遊び (2) 食べ物 (3) 動物</p>	<p>○ このプリントに、自分の好きなものを書いてみましょう。 ・ラーメン ・すし ・やきにく ・やきゅう ・ドッジボール ・なわとび ・パソコン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの考えを引き出せるよう、ワークシートには3つの項目欄を設けておく。 ・ 一つの項目にいくつ書いてもよいことを告げる。 ・ 特に好きなものを一つだけ書くカードを準備しておく。(項目別に三色に色分けしたカードを準備しておき、児童が自分で選べられるようにする。)
<p>4 自分の一番好きなものを発表し合う。</p>	<p>○ カードを黒板に貼りましょう。自分の好きなものを発表します。 ・きのぼり ・てつぼう ・うさぎ ・ライオン ・いちご ・メロン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ1年生でも好きなものに違いがあることがつかみやすいように、自分の顔の絵の下にカードを貼るよう告げる。 ・ 男女別に意見が分かれてしまった場合には、そのことを特にとりあげてなぜそうなったのか話し合いをする。
<p>5 思ったことを発表する。</p>	<p>○ みんなの好きなものをみて、思ったことはありませんか。 ・私と同じ人がいました。 ・好きなものがいっぱいあるね。 ・みんな違うものが好きなので、おもしろいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな考えでも認める。 ・ みんな自分自身の考えで発表できていて、性別などにかかわらず多種多様な好みがあることを積極的に認められるようにする。 ・ 個人によって好みが違うことを認めようとしている意見が出た場合には、特に称揚する。

7 資料

○授業風景

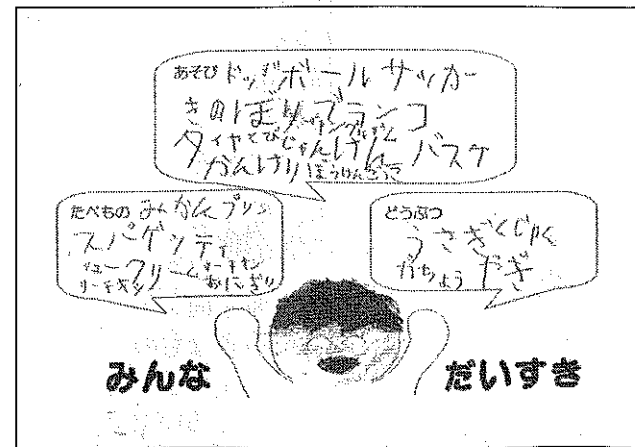
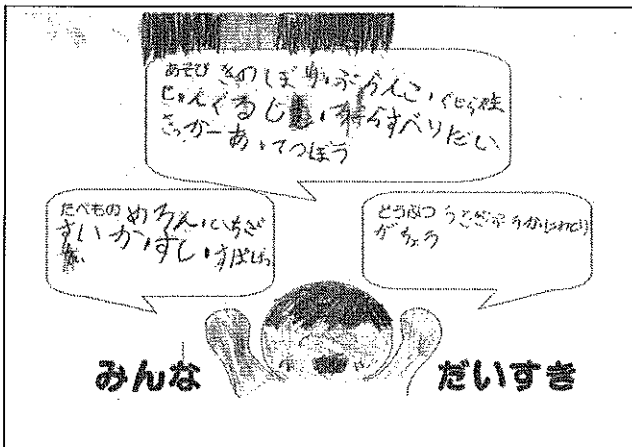
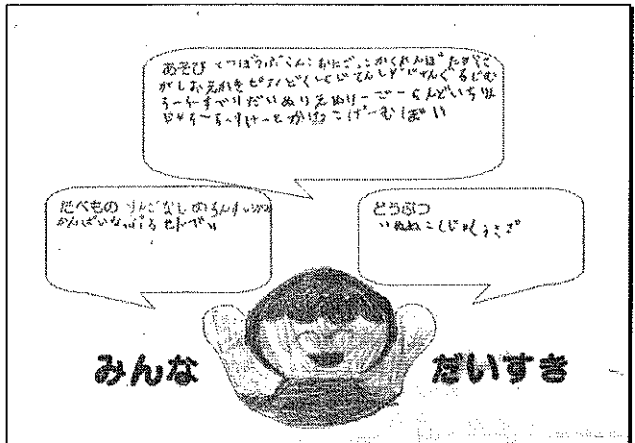
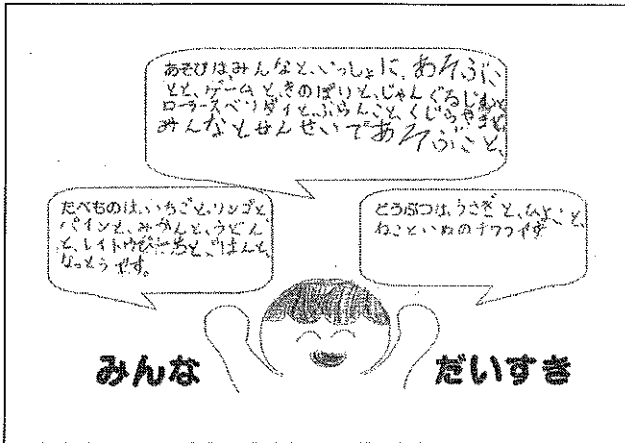


児童全員の自画像



「好きなもののカード」を貼る児童

○ワークシート（記入例）



○実践授業における児童の反応

(1) 導入時に児童の自画像を黒板に貼る場面

自分の絵が貼られることをうれしく思うと同時に、友達の絵を見ることで、親近感や連帯感が強まり、みんな仲間であることを意識した。

児童のよいところを言いながら絵を貼ることで、周りの児童から「それは〇〇さんだ」などのつぶやきも出るなど、友達の個性を改めて認識することができた。

(2) 教師自身の好きなものを知る場面

興味をもって聞き、自分ならこれが好きだという考えをもち、発表したいという意欲を示した。

(3) ワークシートに好きなものを記入する場面

3つの項目のうち、個人によってどれを詳しく書くか差があるが、どの児童も楽しそうにして、すべての項目について詳しく書いていた。

記入内容に大きな男女差は見られなかった。

好きな食べ物欄には給食でおいしかったもの、好きな動物欄では学校でふれ合えたもの、好きな遊び欄では学校で友達といっしょに遊んで楽しかったものなどが多く書かれていた。

(4)好きなもののカードに記入して黒板に貼る場面

3つの項目に縛られず、最も好きなものを記入したいという欲求が強かった。どの項目についても、選んだ児童数に偏りはなかった。

自分のカードを貼るときに恥ずかしがる児童はいなかった。また、興味をもって友達の貼るカードの内容を見ていた。

多様な考えが出ていた。ここでも、記入内容に男女差は見られなかった。

(5) 黒板に貼られたカードを見て、思ったことを発表する場面

みんな違った好みであることを見て、「おもしろい」「楽しい」「自分でしっかり考えている」という意見が多かった。

何を感じ取ればよいかわかりにくい児童もいた。

特に取り上げてみたが、女の子の「きのぼり」や「かけっこ」を見ても、何も変には感じていなかった。

○留意しておきたい点

- ・ 普段から、何でも言える学級づくりに努めることが大切である。
- ・ ワークシートの好きなあそび欄にテレビゲーム機や携帯ゲーム機のソフト名を書きたい児童もいると思われるので、それを認めるか学校での遊びに限定するかを決めておく。
- ・好きなもののカードを、自画像全体の周りに貼る方法と、自画像を黒板全体に配置して自分の自画像の下に貼る方法とがある。後者の場合には、誰が何を書いたのかや、男女による記入内容の違いなどを見つけやすい。
- ・ 発表内容に男女差が見られない場合、教師から「人形遊びの好きな男の子をどう思う？」と問うなどの心のゆさぶりをかけることも必要となる。
- ・ 自分自身でしっかりと考え、より多くの考えを引き出すために、ワークシートへの記入の時間を十分に確保したい。
- ・ 友達の発表内容全体を見て、それについて自分の意見をもつことは1年生には難しいので、考え方のヒントとなる内容を含めて発問するようにする。
- ・ 一人一人の好みは男女にかかわらずみんな違っているが、いろいろな個性が集まって楽しい学級がつけられることや、自分の考えに自信をもつことのすばらしさなどを、授業のまとめの場面でしっかりと押さえる。

わたしのキラリ

(個性の尊重)

1 第2学年（学級活動）

2 目 標

- 女の子も男の子も人間としてかけがえのない存在であり、一人一人違いがあることに気づくことによって、友達や自分のよさを知ることができるようにする。

3 目標に関する児童の実態

- 2年生の児童は、明るく元気いっぱい、休み時間や給食時間は男女に関係なくいっしょに遊んだり、楽しく話をしたりしている。グループで学習する時も性別を意識することなく、協力して作業をしたり、話し合い活動をしたりできる。しかし、自由にグループを作ろうと呼びかけると女の子は女の子、男の子は男の子に分かれてしまうなど、場面によっては性別を意識することもある。このように児童は、はっきり性別を意識しているわけではないが、無意識のうちに今までの体験や生活環境から男女を固定した見方で見ていたり、思いこみで判断したりしていると思われる。

また、いつもいっしょに遊んでいる児童同士はお互いを理解し合えるが、まだまだクラス全員が仲間だという意識は少なく、一人一人に個性がありよさがあるということには気がついていないようである。

そこで性別にかかわらず、お互いのよさを知ること、児童同士の理解を深めたい。

4 指導の工夫とポイント

- 児童は今までの日常生活の中で、外見や好み・特技などについて、男女を固定した見方で見ていたり、自分の思いこみで判断したりしていると思われる。この題材では、普段無意識のうちに感じていることをあえて意識させることによって、自分が固定的に見ていたり、判断していたりしたことに気づかせたい。その上で、人間は性別によって違いがあるのではなく、一人一人個性があり、よさがあることを強調したい。
- 導入では、いろいろな服装で様々なことをしている子どもの姿をプロジェクターで映し、視覚に訴え、自分の考えを持ちやすくする。
- 人間は性別にかかわらず個性があり、自分にも友達にもそれぞれよいところがあることを実感するためにキラリカードを使用し、いつもいっしょに過ごすことの多い生活班で記入する。

5 準備物

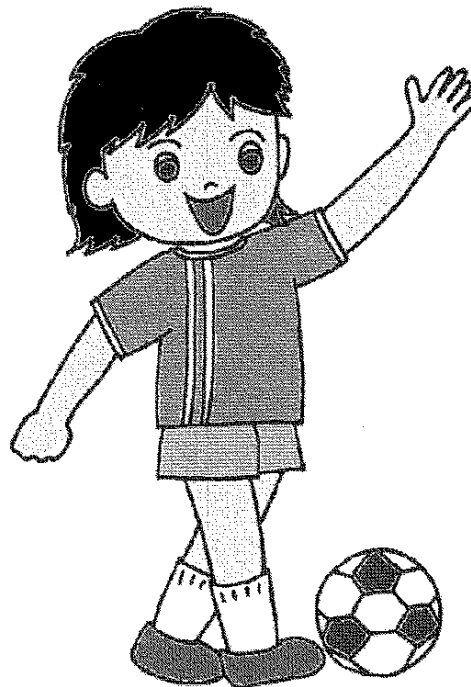
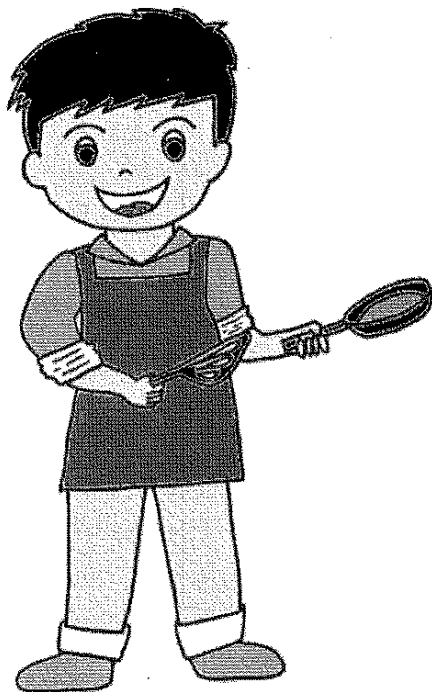
- プロジェクター
- キラリカード
- ふり返しカード

6 指導案

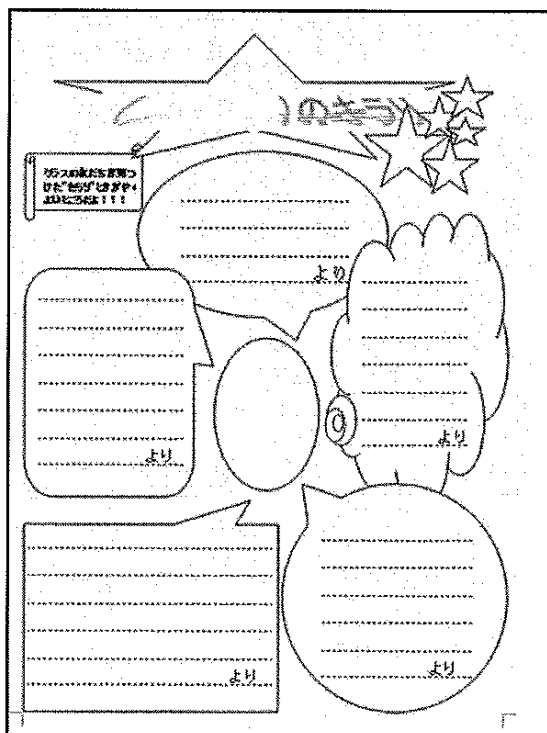
学習活動	主な発問と予想される反応	教師の支援
<p>1 絵を見て、女の子か男の子か、話し合おう。</p>	<p>○ この子は女の子でしょうか、男の子でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サッカーをしているから男の子 ・ 髪が長いから女の子 ・ 青い服を着ているから男の子 ・ 料理をしているから女の子 ・ ズボンをはいているから男の子 <p>○ 見た目やしていることだけでは、女の子か男の子かはわからないね。</p> <p>○ 女の子、男の子に関係なく、だれにでも特技やいいところがありますね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サッカーをしたり料理をしたりしている子どもの姿をプロジェクターで映し視覚に訴え、意見を出しやすくする。 ・ 自分の考えと比べながら聞くように声をかける。 ・ 女の子か男の子か結論づけずにいろいろな意見を出させる。
<p>自分や友達のキラリを見つけよう。</p>		
<p>2 一人ひとりのよさを知る。</p> <p>(1) 友達のよさをカードに書く。</p> <p>(2) 自分のよさをカードに書く。</p>	<p>○ 人間は一人一人違うのが当たり前で、それぞれよさを持っています。今日は友達や自分のよさを見つけてキラリカードに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走るのが速い。 ・ だれにでも優しい。 ・ 計算が速い。 ・ 自動車のことなら何でも知っている。 ・ いつもそうじを一生懸命している。 <p>○ 最後に自分のカードに自分のキラリを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に、友達や自分のよさをいくつか発表させ、何を書いていいのか戸惑う児童にも思いつきやすくする。 ・ 友達のよさを書きやすいように生活班でカードを回す。 ・ 友達のいろいろな面を見てあげ、なるべく多くのよさを書くように助言する。
<p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 今日は自分や友達のよさについて勉強しました。友達に書いてもらった自分のキラリカードを見て、気がついたことや思ったこと、きょうの勉強でわかったことなどを書いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間は性別にかかわらず、それぞれ個性があり、よさがあることを押さえる。

7 資料

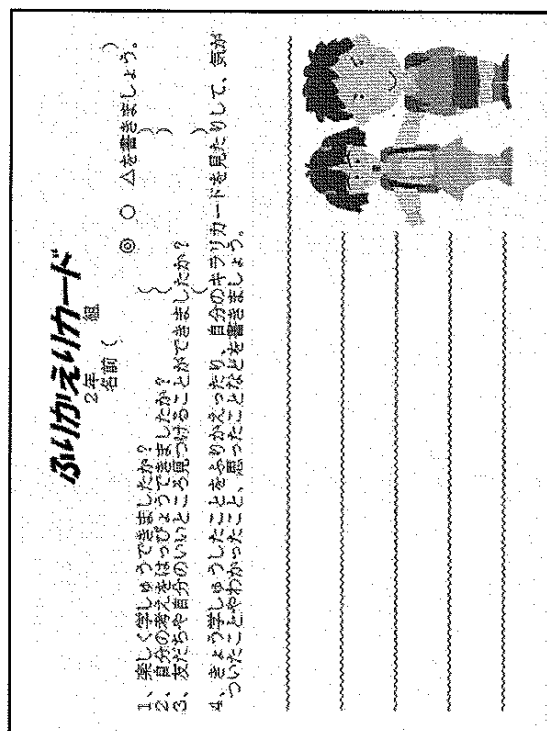
○導入時掲示物



○キラリカード



○ふり返りカード



○板書例

サッカーをしている子

- ・かみが長いから女の子
- ・サッカーをしているから男の子
- ・目がくりっとしているから女の子

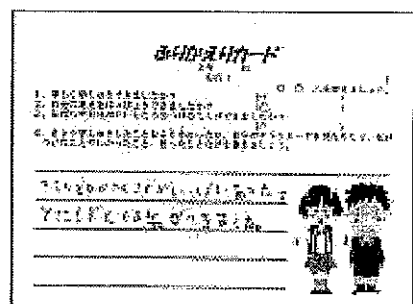
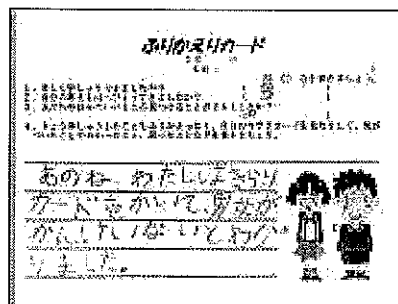
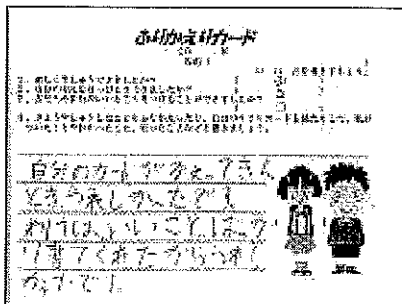
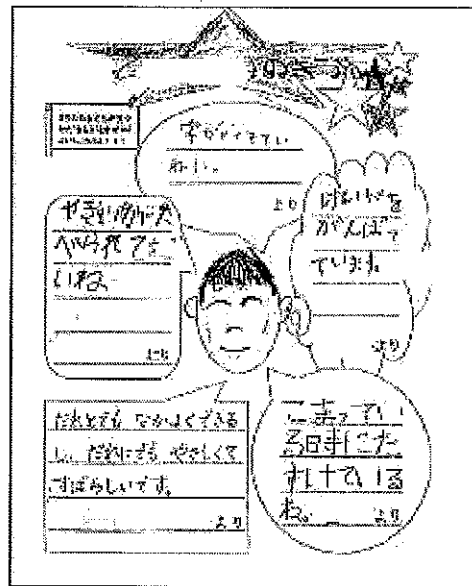
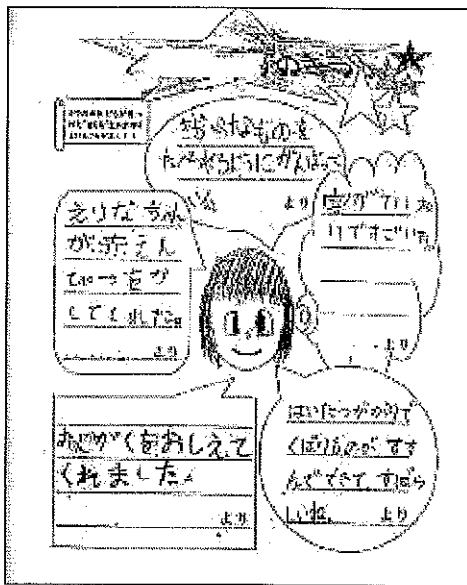
りょうりをしている子

- ・エプロンをしているから女の子
- ・かみがみじかいから男の子
- ・りょうりをしているから女の子

自分や友達のキラリを見つけよう。

- ・走るのがはやい。
- ・いつもそうじをいっしょうけんめいしている。
- ・字がじょうず。
- ・いつもおもしろい。
- ・すききらいがなくてきゅう食をぜんぶ食べる。
- ・やさしくて親切。
- ・ダンスがじょうず。

○キラリカード、ふり返りカード記入例



「男の子は…」「女の子は…」と きめつけていいの？

(性別による役割分担)

1 第3学年（学級活動）

2 目標

- 今まで「男の子は…」「女の子は…」とあたり前のように言っていた言葉が、性別による固定的な意識によるものであることに気づき、自分の生活を振り返り、互いのよさを認め合い、自分らしさを大切にしたい行動をとることができるようにする。

3 目標に関する児童の実態

- この時期の児童は、男女を区別する意識があまりなく、いっしょに遊んだり学習したりすることが自然にできている。一方、「男の子は～だから・女の子は～だから、いっしょに遊ばない。」と言って、同性のグループで行動を共にしようとする児童も多くなっていく。
また、家庭とか一般社会で、「男の子は、女の子は、こうあるものだ。」と聞かされているうちに、違和感を覚えながらもそのまま受け入れてしまい、次第にそれがあたり前のこととして定着し、その考え方に左右された行動をとってしまう児童が増えてくる時期でもある。
そこで、個性の違いを性別による違いとして、固定的な見方をするのではなく、互いのよさを認め合い、自分らしさを大切にしたい行動をさせたいと考えた。

4 指導の工夫とポイント

- 本時の導入では、「男の子は」「女の子は」の後に続く内容を言葉遊びの感覚で考えていくが、そこには無意識のうちに根付いている思いをワークシートに書くと思われる。家庭や友だち等で男女を比較して一方を誉めたりけなしたりして使う場面もあると考えられるので、そのような日常の会話などを中心に取り上げていきたい。
- 学習活動2で、一つずつ児童の意見や体験談を取り上げて話し合う時間を設ける。特に、男女を比較して差別感につながりやすい内容や、児童にとって不公平感が分かりやすい内容は、話し合いに十分な時間をとる。その結果「男の子は」「女の子は」と書いたカードがふさわしくない場合は取りはずし、決めつけた表現を書き直したいという気持ちになるように方向づけたい。
今まで「男の子は…」「女の子は…」と意識付いていた言葉におかしいと感じる瞬間を大切に、慣習的な言葉をそのまま口に出している自分に疑問をもち、そんな考え方を何となく受け入れていたことに気づかせ、今までもっていた性別による差別意識の解消を図りたい。
- 書き直しの一方法として、主語を取り替えてみたり、作り直したりして納得のいく表現を考えさせる。作り直しは難しいと思われるので、グループごとに児童が感じている思いを発表し合ってまとめるよう提案する。
- 最後に、自分について考える時間を設け、男女にかかわらず自分らしさを大切にしたいという気持ちが育つようにしたい。

5 準備物

- ワークシート1枚
- **男の子は** **女の子は**のカードをそれぞれ10枚

6 指導案

学 習 活 動	主な発問と予想される反応	教 師 の 支 援
<p>1 「男の子は」「女の子は」の後に続く内容を考えて発表する。</p> <p>2 自分が思っている訳や、人から言われた訳を発表する。</p>	<p>○ 男女を比べて「男の子は…である。」「女の子は…である。」と自分で思ったり、人から言われたりしたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男の子は、外遊びがすき。 <p>○ どうしてそう思ったのか、自分の経験から話してみましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんに、妹と比べてよく言われている。 ・ そんなのおかしいよ。 ・ すきな人もきらいな人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ずつの子どもが思いを出しやすいように、ワークシートに吹き出しを用意する。 ・ 発表を男女別に分けて板書する。 ・ 男女に共通することが分かりやすい内容をいくつか選び、発表者からどんなときの言葉か聞く。 ・ 挙手しての発言だけでなく、つぶやきも取り上げて、活発な意見交換になるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「男の子は…」「女の子は…」と きめつけていいの？</div>		
<p>3 板書の内容について、もう一度考え話し合う。</p> <p>4 「男の子は」「女の子は」のカードを取り替えてみたらどうなるか話し合う。</p> <p>5 どうしたらよいかグループで相談し、発表する。</p> <p>6 本時の学習で思ったことや考えたことを書く。</p>	<p>○ 一つずつみんなで話し合ってみましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私も外遊びがすきで、休み時間にはいつも外へ出てる。「男じゃ。」と言われてくやしかったことがある。 ・ 男の子でも外に出ず、教室で読書をしたり絵をかいたりしている子もいる。 <p>○ このカードでいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合わないから取った方がいい。 <p>○ カードを取り替えてみたらどうでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子にも、男子にも、言える。 ・ 女の子、男の子と決めつけた言い方はおかしい。 <p>○ 表現をどのように書き替えたらいいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女の子も、男の子も外遊びがすきな子がいる。 ・ ○○の人もいるし、○○の人もいる。 <p>○ 今日の学習で思ったことや考えたことを、ワークシートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な生活場面について話し合うことにより、「女の子は…」と言われて不満に思った経験などを出しやすいようにする。 ・ 個人名を挙げる児童がいるときは「そんな子もいるね。」などと受容したり、「女の子は」などと言い直したりするよう配慮する。 ・ 性別による限定ができていくカードは取りはずしていく。 ・ 発表したいいくつかの内容で男女のカードを取り替えても、やはり決めつけられない内容があることを確認する。 ・ 男の子は… 女の子は… の表現をどのように書きかえるとみんなが納得できる内容になるか、一人一人の考えを出し合って、まとめるよう提案する。 ・ 自分たちの日常生活の中で見過ごしていた意識に気づき、自分らしくありたいという気持ちをもったことを賞賛する。

7 資料

○ワークシート

ワークシート

「男の子は…」 「女の子は…」

3年 名前()

○ 文を考えてみましょう。

男の子は、

女の子は、

☆ 今日の勉強で、思ったことや考えたことを書きましょう。

.....

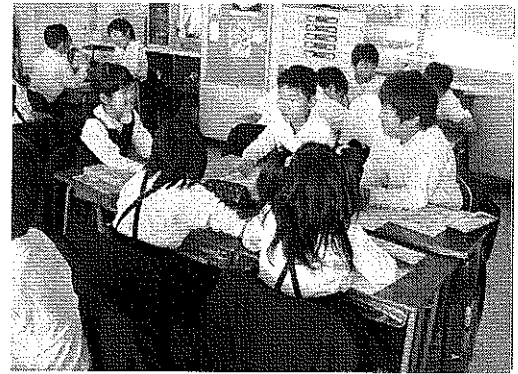
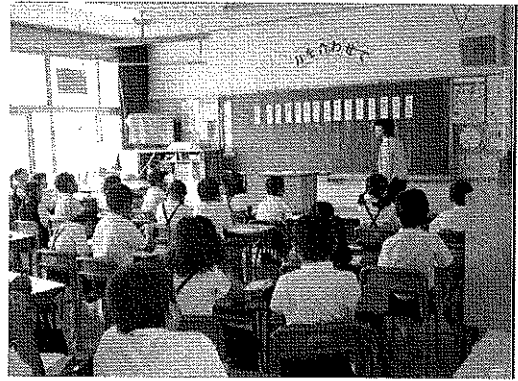
.....

.....

.....

.....

○授業風景の写真



○ 板書例

「男の子は…」 「女の子は…」と きめつけていいの？

男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	男の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	女の子は、	
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
しつかりしなさい。	注意力なし。	元気がいい。	まけずぎらい。	外でよくあそぶ。	ちゃんとしゆくだいをしない。	あそびに行つて、	なかなかでがんばる。	おもしろい。	強い。	スポーツがすき。	声が小さい。	字がきれい	かたづけない。	おしゃれ。	かわいい。	おとなしい。	よくなく。	やさしい。	長電話をよくする。	はずかしいから手をあげない。

○児童の反応

【学習活動 5 表現の書き直しをグループで相談して発表する。】

- T 「男の子は」「女の子は」では、納得いかないのだったら、この表現をどのように書き替えたらいいでしょうか。グループで相談して書き直してみましよう。
- T (どうしたらいいのかわからないグループに) どの表現を書き直しますか？
- C 外でよく遊ぶ。
- T Oさんは、どのように書き直したらいいと思いますか？
- C 男の子も、女の子も外でよく遊ぶ人がいる。
- C あまり遊ばない人もいる
- T 今言ったことを、そのまま、まとめてごらん。
- C 外でよく遊ぶ人もいるし、遊ばない人もいる。
- T それでいいのよ。ワークシートに書いておくとよくわかるね。
- T (グループの様子を見回り、迷っているグループを支援する。)
- T 書き直しができたグループから、発表しましょう。
- C1 男の子も、女の子も元気がいい。
- C2 外で元気に遊ぶ人もいるし、教室で遊ぶ人もいる。
- C3 男の子も、女の子も、高校生ぐらいになると、長電話をよくする。
- C4 男の子も、女の子も、ほとんどの人がスポーツをする。
- C5 男の子も、女の子も、外でよく遊ぶ人もいるし、遊ばない人もいる。
- C6 強い人や弱い人が、いろいろいる。
- C7 男の子も、女の子も、みんなおもしろい。

○ワークシート記入例

ワークシート

「男の子は…」 「女の子は…」

3年 名前()

○ 文を考えてみましょう。

男の子は、強そうだな。なかにはやさしい人もいる。

女の子は、かわいいし、いろんなおしゃべりさせてあげられる。

☆ 今日の勉強で、思ったことや考えたことを書きましよう。

「男の子は」「女の子は」ってきめつけられたいな。なんだなと思いました。女の子も男の子も、人それぞれが全員がうんといいなと思いました。元気な人もおとなしい人も、強人も弱人もいろんな人がいるんだな。と思いました。

ワークシート

「男の子は…」 「女の子は…」

3年 名前()

○ 文を考えてみましょう。

男の子は、あそびに行かないかな。かしくくたいもして

女の子は、かおが白い。ほうがにあうよ。

☆ 今日の勉強で、思ったことや考えたことを書きましよう。

お母さんはよく男の子がとか女の子がなんてかんけいないよ。と言って、いるけどわたしはかんけいあると思っていたけど今日勉強でかんけいないんだな。と思いました。わたしは女の子だけと気にしなくてもいいんだな。

男だから・・・？ 女だから・・・？

(性別による役割分担)

1 第4学年(学級活動)

2 目標

- 児童の日常生活の中には、何気ない性差別(男だから・・・、女だから・・・)が存在する。そのことを意識化させることで、性別によって過度にパターン化された行動様式や固定的な役割分担によらず、自他の個性や能力を認め合い、自分らしく生きようとする態度が育つようにする。



3 目標に関する児童の実態

- 4年生の児童は、高学年への移行期ではあるが、男女いっしょに仲良く遊んだり、グループ学習のチーム分けを男女の分け隔てなく決めたりする場面が多くみられる。また、性別にこだわらず、自分がやりたいことを自由に選択して行動しているように見受けられる。
しかし、その一方で、子どもを取り巻く大人の社会では、「男だから」、「女だから」という考え方が根強く残っており、その日常的な影響などによって、子どもたちにもそういった意識が自然に身についてきていると思われる。
そこで、本時の学習を通して、性別にかかわらず、自分の個性や能力を発揮し、よりよく生きていこうとする意識を高めたい。

4 指導の工夫とポイント

- 本時の導入で、大人から、「男だから・・・」、「女だから・・・」と言われている子どもの絵を見せることで、社会的性差に対する意識をもつことができるようにする。
- 「ザ・チェック！」の活動をすることで、児童の意識をつかんだり、児童自身が社会的性差に対する自分の意識を認識したりできるようにする。
- クラスのみんなで話し合ったことをもとに、ワークシートに自分の考えを記入することで、性別にとらわれず、「自分らしさ」「その人らしさ」を大切に、個性や能力を発揮しながら生活していこうという気持ちが育つようにする。

5 準備物

- 絵
- 「ザ・チェック！」の提示用問題カード
- 「ザ・チェック！」の児童用カード (各カード 一人1枚ずつ、計2枚)
【「それでいい」→  (黄色)、 「おかしいな」→  (水色)】
- ワークシート

6 指導案

学 習 活 動	主な発問と予想される反応	教 師 の 支 援
1 絵を見て話し合う。	<p>○ 大人の人は何と言っているか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危ないからやめなさい。 ・やけどしそうで怖いわ。 <p>○ 大人の方は、「男だから・・・」「女だから・・・」してはいけないと言っているが、言われた人は、どんな気持ちがするだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんなこと言われていやだな。 ・なぜ、そんなこと言うのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の性差別に対する意識傾向をつかんだり、本時の学習に関心をもてたりできるよう、児童の反応を聞いた後に、大人のせりふを提示する。 ・ 「男だから」、「女だから」といった価値観を押しつけるのはおかしいと気づくことができるように、疑問に思うことなどを出し合い、意識づけを図る。
<p>「男だから」「女だから」について考えよう。</p>		
2 「ザ・チェック！」 をする。	<p>○ 先生が出す文を聞いて、「おかしいな」と思う文のときには ☹️ カードを、「それでいい」と思う文のときには 😊 カードを挙げよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスの全体的な意識傾向をつかんだり、児童自身が自分の意識を認識したりできるよう、☹️ カードと 😊 カードを活用する。
3 「ザ・チェック！」 をもとに話し合いをする。	<p>○ それぞれの文がどんなことを意味しているか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野球やサッカーが男の子の遊びだなんて、だれが決めたの。 ・ やりたいことをやろうとするのは、いいんじゃないのかな。 ・ 男と女で差別して変だな。 ・ 力の強い女の子もいるのにな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の思いや願いを無視した性差別に気づくことができるように、おかしいと思うことなどについて話し合うようにする。 ・ 教師が結論を提示するのではなく、児童が話し合う中で考えていくようにする。
4 本時の学習で考えたことをもとに、ワークシートに記入をする。	<p>○ 絵の中の子どもは、何と返事をしているか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして女の子はだめなんですか。物をつくるのに男の子も女の子もないでしょう。 ・ 危ないからと言ってくれるのなら、「女の子なのに・・・」と言わないで。 ・ ぼくは、お料理するのが好きなんです。やりたいことは、がんばらせてよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別にとらわれずに、自分らしさを大切にし、個性や能力を発揮しながら生活していこうという気持ちが育つように、大人からの言葉に対して、返事になる文を、吹き出しに書き、意識を深める。

7 資料

○絵・ワークシート（記入例）



- * 学習活動1では、せりふのない絵だけのものを見せて考えさせ、その後、大人のせりふを提示する。
- * 学習活動4では、子どものせりふを書くわく（吹き出し）を付け加え、ワークシートとする。
（上記の子どものせりふは、児童の記入例）

○「ザ・チェック」の提示用問題カード

ザ・チェック！

- 1 女の子がサッカーや野球をして遊ぶ。
- 2 わたしの兄は、ビーズで小物をつくるのが好きだ。
- 3 図工で画用紙を選ぶとき、Aさん（男の子）はピンクを選び、Bさん（女の子）はブルーを選んだ。
- 4 母は、わたしには食事の準備の手伝いをたのむが、いっしょにゲームをして遊んでいた兄には何も言わない。
- 5 女の子は力が弱いので、体育のとき、とび箱やマットの準備は男の子がすればいい。

○児童の反応・ワークシート記入例

【 学習活動 1 】

- ・「女の子なのに」と言わないでほしいです。挑戦するのはいいことだと思います。
- ・将来、役に立つと思うので、男が料理をしてもいいと思います。
- ・人にはそれぞれ自分の生き方があるのだから、そんなふうに言わないでほしいです。

【 学習活動 4 】

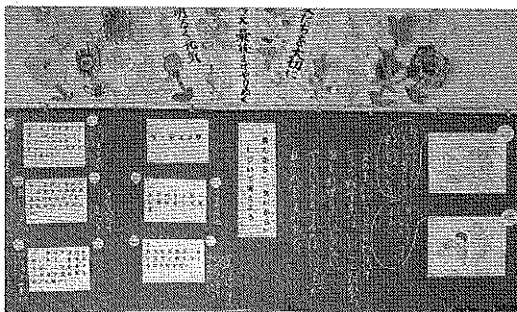
[女の子の大工仕事]

- ・男だから、女だからと、大工をする人は決まってないでしょう。
- ・人それぞれでしょう。やってみることに価値があると思います。
- ・わたしの趣味なのだから、女も男も関係ないでしょう。
- ・どうしてそんなに女と男を区別するんですか。将来、役に立つかもしれないでしょう。
- ・好きでやってることなんだからいいでしょう。わたしの将来の夢は大工さんです。
- ・挑戦したいのに、女の子だからしてはいけないというのはおかしいです。

[男の子の料理]

- ・男の子にも役に立つことだから、挑戦させてほしいです。
- ・シェフや板前さんには男の人がいっぱいいます。
- ・ぼくは料理が好きだからしているだけです。
- ・おいしい料理をみんなに食べてもらいたいんです。大人になって必要なことです。
- ・大きくなったときにお料理ができるよう、そのためのウォーミングアップです。

○板書例



自分らしく（その人らしく）

（個性の尊重）

1 第5学年（学級活動）

2 目 標

- 日常生活の中に、性別によってその特性に偏った考え方があることに気づき、性別にとらわれず、自他のよさを認め「自分らしさ（その人らしさ）」を伸ばし、よりよい人間関係づくりをしようとする心情や態度が育つようにする。

3 目標に関する児童の実態

- 日常生活の中に「女だから・・・」「男だから・・・」と決めつけるような意識があり、児童は、なんとなくおかしいと思うことがあってもそれを受け入れて生活している。そして、児童自身も言動にあらわしている。それは、日常的に大人が性別によって決めつけた考え方で発言していることや、児童が性別役割分担の中で生活していることなどが起因していると考えられる。

そこで、日常生活の中にある「女だから・・・」「男だから・・・」について話し合い、当たり前と思っていることが本当に正しいのか、性別による偏った考えにしばられ、お互いの成長を阻害していないかなど考えるようにし、自分の生活を振り返り、よりよい人間関係づくりを考えていく機会にしたい。

4 指導の工夫とポイント

- 児童の「女だから・・・」「男だから・・・」と言われた経験のアンケート結果を提示し、それをもとに話し合うようにし、日常生活にある性別についての考え方に気づくことができるようにする。
- 「女だから・・・」「男だから・・・」と言うことについて話し合い、その中で、性別に関係ないものがあることに目が向くようにする。当たり前と思っていた物事が、根拠がはっきりしないことや相手を嫌な気持ちにさせたり、やる気をなくさせたりするなどの問題点があることに気づくようにし、日常生活や自分の意識を見つめ直すきっかけになるようにする。
- 実践的な態度を育てるため、これからどんなことに気をつけて行動していけばよいか考えるようにする。このとき「自分らしさ（その人らしさ）」という言葉を提示し、自他に対してそれを大切に行動していくことについて話し合う。

・他の人に対して

性別に関係なく、それぞれに長所があることに気づくようにする。そして、お互いの認め合いの中で、伸びていくことについて考え、認め合いの大切さを理解できるようにする。

・自分に対して

性別による偏った考えに左右されず、自分の長所をしっかりと探し、伸ばすと同時に、そのことを周囲の人にも理解してもらえるよう行動することの大切さを理解できるようにする。

5 準備物

- アンケート用紙
- アンケート結果（グラフ）
- ワークシート

6 指導案

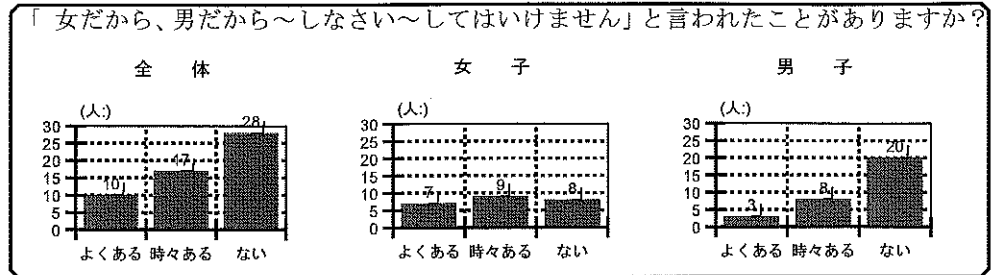
学習活動	主な発問と予想される反応	教師の支援
<p>1 アンケート結果について話し合う。 ・言われた経験の有無(全体・男女別)</p> <p>2 体験したことやそのときの気持ちを発表する。</p>	<p>○ アンケート結果です。グラフを見て何か気づいたことがありますか。 ・「女(男)だから・・・」と言われた経験のある人が結構いる。 ・女子が言われることが多い。</p> <p>○ 具体的にはどんなことを言われましたか。 ・男だから強くなりなさい。 ・女だから家のことをしなさい。 ・女だから乱暴な言葉を使ってはいけません。</p> <p>○ そのときどんな気持ちになりましたか。 ・その通りだ。 ・いやだな。 ・どうしてなんだろう。 ・どうして女だけ。 ・男女関係ない。</p>	<p>・ 事前にアンケートをとり、児童の実態をつかむ。そして、アンケート結果を話題にし、本時の学習への関心が高まるようにする。</p> <p>・ アンケートを各自に返し、自分の体験を振り返ったり、発表がしやすいように配慮する。 ・ 後で言葉の使われ方や問題点を考えやすいように、「女だから・・・」「男だから・・・」「そのときの気持ち」に分けて黒板に整理する。</p>
<p>「女だから・・・」「男だから・・・」について話し合おう。</p>		
<p>3 日常生活の中にある「女だから・・・」「男だから・・・」を分類する。</p> <p>4 「女だから・・・」「男だから・・・」について話し合う。</p> <p>5 これからどんなことに気をつけて行動していけばよいか話し合う。 ・他の人に対して ・自分に対して</p> <p>6 今日の学習をふり返り、感想を書く。</p>	<p>○ 日常生活の中にある「女だから・・・」「男だから・・・」を整理してみましょう。 ①遊び ②行動や態度 ③話し方</p> <p>○ この言い方についてどう思いますか。 ・しかたがない。 ・おかしい。 ・女にきびしい ・性別は関係ない。 ・その人のよさが無視される。</p> <p>○ どのようにしてほしいと思いますか。 ・女だから、男だから、で決めつけたくないでほしい。 ・自分らしさをわかってほしい。</p> <p>○ これからどんなことに気をつけて行動していけばよいですか。 ・性別にこだわりすぎないようにする。 ・相手を認める。 ・自分のよさを見つけて伸ばす。 ・自分のよさをわかってもらう。</p> <p>○ 「女らしさ」「男らしさ」に代わる言葉をみんなで考えてみましょう。</p> <p>○ 今日の学習を振り返って思ったことを書きましょう。</p>	<p>・ 種類分けをすることによって、日常生活の中には性別と結びつけて行動のし方を決める考え方が多岐にわたって存在することに気づくようにする。</p> <p>・ 本当に性別に関係あるのか、その言葉が相手のためになっているのか問いかけ、日常生活の中にある性別についての考え方に問題点がないか考えるようにする。</p> <p>・ 本人が努力しても、周囲がそれを認めない言動をとるとどうなるか問いかけ、周囲の理解がないとよさを伸ばせないことに目が向くようにし、互いに認め合うことの大切さに気づくようにする。</p> <p>・ 「自分らしさ(その人らしさ)」という言葉を提示し、性別にとらわれすぎずに長所を伸ばすことの大切さに目が向き、展望がもてるようにする。</p> <p>・ 自分なりの小さな努力が大切なことを話し、励ます。</p>

7 資料

○板書例

※グラフを提示し、気づいたことを話し合う。

※短冊に記入し貼付する。同じ意見の場合は数を記入する。



<p>女だから</p> <p>足をひらくな あらい言葉× くつをそろえろ 手伝いをしろ 整理 整とん 机の上に(で)・・・ おとなしく あぐら× 男みたいな・・・× 料理しろ 片づけをきちんと 女らしい口調で</p> <p>自分の気持ち</p> <p>その通り いやだな 男女関係ない うるさい 男はいいの？ なぜ女は？ 差別だ 別にいいでしょ</p>	<p>男だから</p> <p>泣くな しっかりしろ 力仕事をしろ 働け 運動しなさい 外で遊べ</p>	<p>「女だから・・・」「男だから・・・」について話し合おう</p> <p>遊び 行動や態度 話し方</p> <p>※隣の短冊を種類別に並べる。</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女関係ない ・いやな気持ちになる ・その人のためになる？ 	<p>どんなことに気がつけたらよいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別に関係なくすることはする。 ・その人のよい所を見つける。 ・自分のよい所を見つけ、のばす。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>らしさ を大切にしよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※□の中に自分(その人)を記入する。</p> </div>
--	--	---	---

○アンケート用紙

アンケート

(女・男) 名前 ()

①「女(男)なんだから～しなさい。」「女(男)なんだから～してはいけません。」と言われたことがありますか。(家族から・友だちから・大人からなど)
次の中から、あてはまるものを○で囲んでください。

[よくある 時々ある ない]

☆「よくある」「時々ある」と答えた人に聞きます。

②具体的には、どんなことを言われましたか。

○

○

○

③そのとき、どう思いましたか。

「女だから・・・ 男だから・・・って？」

(女・男) 名前 ()

①「女だから・・・」「男だから・・・」という言葉についてどう思いますか？

②これからどんなことを気をつけて行動していけばよいと思いますか？

どんな言葉を入れたらよいでしょう・・・

らしさを大切にしよう

③今日の学習をふり返って、思ったことを書きましょう。

「私」がなりたい職業

(進路選択)

1 第6学年(学級活動)

2 目標

- 社会では多様な職業に男女がともに進出していることに気づき、性別にこだわらず個人の能力や個性を生かした職業を選択し、主体的に将来の仕事について考えることができるようにする。

3 目標に関する児童の実態

- 児童の多くは将来に対して夢を抱き、明るい展望を持っている。女性も男性も仕事と家事の両方について責任をもち合いながら生きていくことが大切だと思っている児童も多い。しかし、性別にとらわれた職業意識も見られ、将来の夢について選択の幅を狭めてしまっている児童もいる。

そこで、本時の学習を通して、性別にこだわらず主体的に将来の職業について考えようとする意識を高めたい。

4 指導の工夫とポイント

- 「女の職業、男の職業」といった性別による職業意識は、個人としての自由な生き方を妨げるものである。男女ともに、自分のやってみたいことにチャレンジしていくことや、経済的にも生活的にも自立して、やりがいを見つけながら生き生きと社会参加していくことは自己実現をしていくうえで大切なことである。本時の活動を通して、児童が自分自身の人生についての関心を高め、夢と期待を抱くことができるようにする。
- 指導にあたっては、それぞれが大きくなってやってみたい仕事について発表し、男女のなりたい職業をもとに考え合う場面を設定する。その後、従来男性(女性)の職業と言われていた分野で働いている女性(男性)について紹介し、職業に性別による区別はないことを理解させるとともに、自分が選んだ仕事に就いて、生き生きと働くことのすばらしさも感じ取らせたい。これらの活動を通して、将来の職業選択についての幅や自己実現の可能性を広げながら、自分の将来に対して夢を抱くことができるようにする。

5 準備物

- 将来、自分がしたい仕事カード
- いろいろな場面で働いている人の写真を貼った用紙
- ワークシート

6 指導案

学習活動	主な発問と予想される反応	教師の支援
<p>1 大きくなったらどんな仕事をしてみたいか発表し合う。</p> <p>2 男女別に分類した職業を見て気づいたことなどを発表する。</p>	<p>○ 大きくなったらどんな仕事をしてみたいか話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士・看護師・花屋・スタイリスト・スポーツ選手 ・ 警察官・弁護士・医者・芸能人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に児童が書いた将来になりたい職業のカード（第2希望まで）を、男女別に整理しながら黒板に貼る。男女共に同じ職業がある場合には、男女の中央に貼る。
<p>3 写真を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路面電車の運転士 ・ 保育士 ・ 新幹線の車掌・運転士 ・ 看護師 ・ サッカーの審判員 ・ 家庭科教員 ・ ダンプトラック運転手 ・ 白バイ隊員 ・ 造園技能士（庭師）など <p>4 本時の学習で考えたことをもとにワークシートに書き、まとめをする。</p>	<p>女性の仕事・男性の仕事と分かれているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女の子がやりたい仕事と男の子がやりたい仕事に分かれています。 ・ 今の社会でも保育士や看護師は女性が多いし、警察官や医者は男性が多いんじゃないかな。 <p>○ 男女を入れ替えてみたらどうだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師をしている男性もいるよ。 ・ 女性の警察官や医者もいるね。 ・ 女性の仕事、男性の仕事とは決められないよ。 <p>○ 働いている人の写真を見て、感じたことを自由に書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性（男性）が働いている。 ・ 真剣でかっこいい。 ・ 生き生きしているね。 ・ 仕事にやりがいを感じてそう。 ・ なぜこの職業を選んだのかな。 ・ この仕事のおもしろいところは、どんなことだろう。 <p>○ 将来仕事を決めるとき、大切にしたいことはどんなことですか。今日の学習を振り返りながら書いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女それぞれのやりたい職業を分類して、職業別に集計することによって、男女のやりたい職業の特徴について考えやすくする。 ・ 女の子の希望と男の子の希望を入れ替えてみることによって、それぞれの職業が女性、男性に限定されないことに気づくことができるようにする。 ・ 性別に関係なく生き生きと働いている人の写真を貼った用紙をグループに1枚配り、写真から読み取れることや想像できることなどを自由に書き込んでいくことで、自ら選んだ仕事に誇りをもっていることが感じられるようにする。 ・ 写真に写っている人を傷つけるようなことは、人権に配慮して書き込まないように指導する。 ・ グループの発表の後に、写真について説明する。 ・ 女だから男だからということにとらわれず、自分がやりたい仕事にチャレンジしていくことが大切なことを話し、将来の職業選択について展望が持てるようにする。

7 資料

○ワークシート

☆あなたにとって仕事を決めるとき
大切なことはどんなこと？

今日の学習をふり返りながら書いてみましょう。

第1に、

第2に、

それから、

☆ 学習して思ったこと、考えたこと、気がついたことなどを自由に書いてみましょう。

○板書例

[自分が] になりたい仕事 [にチャレンジ]

女の子				男女	男の子			
保育士	ペットショップ	編集者	警察官	弁護士	プロ野球選手	画家	ゲーム	車の整備士
保育士	ペットショップ	花屋	メイクアップ		弁護士	プロ野球選手	建設業	クリエイター
保育士	ペットショップ	ガラス工房	アーティスト		プロ野球選手	総理大臣	漁師	漫画家
保育士	ペットショップ	ガラス工房			レーサー	K1 選手	発明家	
保育士	盲導犬訓練士	看護師			声優	カメラマン	科学者	
保育士	盲導犬訓練士				俳優	カメラマン		
保育士	動物の飼育				スポーツ	散髪屋		
保育士					ショップ			

[女の]仕事、[男の]仕事と
決めつけてはいけない

※ [自分が] [にチャレンジ] は学習活動4で書く。

※ [女の子] [男の子] のカードは学習活動2で入れ替える。

○学習活動3の例

【写真を見て書き込むときのポイント】

- ・各自の自由な意見を書き込めばよい。
- ・意見の量が多いほどよい。
- ・他の意見を発展させた意見、組み合わせた意見などもよい。
- ・写真に写っている人を傷つける書き込みはしない。
- ・書き込んだ意見に対する批判はしない。

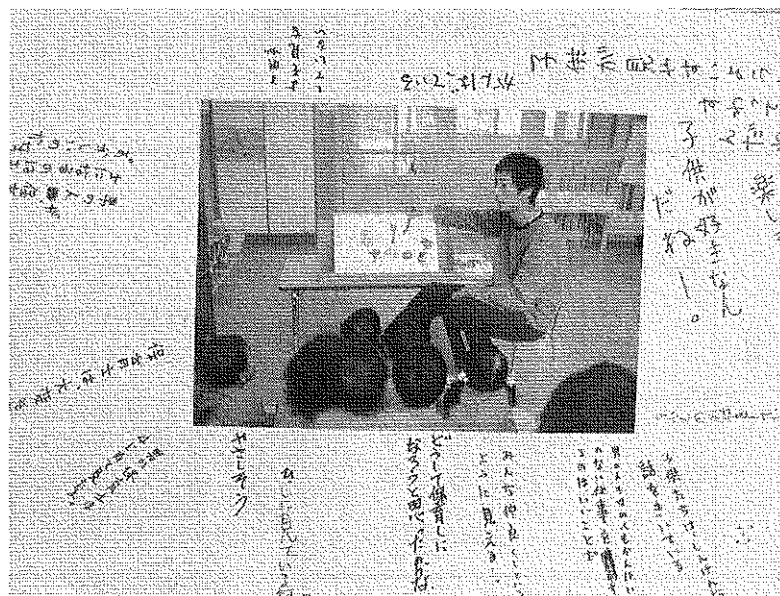
【資料】

<上の写真>

岡山電気軌道（株）の女性の路面電車運転士

<下の写真>

岡山市立高島保育園の男性の保育士



○ワークシートに書かれた児童の記入例

☆あなたにとって、仕事を決めるとき大切なことはどんなこと？

- ・やりがいのある仕事
- ・やりたいこと
- ・やる気が出るか
- ・楽しさ
- ・人のために役立つ仕事
- ・おもしろい
- ・自分にむいているか
- ・自分にできるか
- ・自分が好きなこと
- ・自分が最後までできるか
- ・自分の意志
- ・なってよかったと思える仕事
- ・生活できるぐらいのお金をもらえる仕事

☆ 学習して思ったこと、考えたこと、気がついたことなどを自由に書いてみましょう。

- ・みんなが仕事に真剣に取り組んでいて、みんな光っていたよ。私もそうなるぞ！
- ・男女の差別がなくなる日はいつだろう。私のおばあちゃんは女性のバスの運転手を見た。
- ・自分の意志で夢を実現していてすごいなあと思いました。
- ・今まで男の仕事と女の仕事が決まっていると思っていたけど、男女関係なくやりたいことを一生懸命楽しくやればよいと思いました。

2 ジェンダーの視点をふまえた学校保健

ジェンダー(社会的性別)の視点」とは…

「社会的性別」(ジェンダー)は性差別、性別による固定的役割分担、偏見等につながっている場合もあり、これらが社会的に作られたものであることを意識していこうとする視点のこと。(出典：内閣府男女共同参画局)

(1) 学校保健とジェンダー

平成20年1月の中央教育審議会答申に「学校は、心身の成長発達段階にある子どもたちが集い、人と人の触れ合いにより、人格の形成をしていく場であり、子どもが生き生きと学び、運動等の活動を行うためには、学校という場において、子どもの健康や安全の確保が保障されることが不可欠となる」とある。

子どもの健康や安全の確保が保障されているということについて、ジェンダーの視点から考えると、学校保健は、生物学的な性別に関するだけでなく、社会的・文化的に作られる性別(例：男らしさ・女らしさ)にも配慮し、児童一人一人が安心して能力を発揮しながら生きていけるよう支えることであると考え。それは身体的、精神的、社会的そして性的存在として児童の尊厳と成長が認められることであり、さらには、疾病や障害があっても性別による二次的被害を受けることなく学校生活を過ごすことができるということである。

ところが、現状では社会、文化やメディア等の環境の変化の中で、学校のみならず家庭や地域社会でも子どもたちの健康や安全が完全に確保されているとはいえないで問題が生じることも少なくない。この背景には、学校、家庭、地域社会の中に根強く残る性別に関する固定的な社会通念や慣習、ジェンダーによる偏見等があることも学校保健上では考慮しておくことが必要である。

心の問題の中には医学的な対応を必要とするものもあるので、早期に適切な対応をしていくことが大切である。ジェンダーに基づく偏見から問題が生じたり、複雑になったりしないよう、保健教育や相談活動を行う保健主事や養護教諭は「ジェンダーに敏感な視点」を持ちながら支援体制をつくっておきたい。

(2) ジェンダーの視点による保健教育

学校における保健教育は、生涯を通じて性別にかかわらず、心身共に健康で安全な生活を送るための基礎を培うものである。特に、性に関する教育では、男女共に自分自身の心身の発育・発達や

性に関する内容を理解し、自ら健康を管理し改善できる能力を育てるとともに、男女がお互いの性を理解し合って、対等に人間関係を築くことができる力を育てていく必要がある。

ジェンダーの視点からの保健教育では、生物学的な性の科学情報に限らず、社会的、文化的に作られた性への通念や慣習、メディアによる情報等を偏った見方ではなく、情報や事実を提供することが大切であると考えられる。

養護教諭は、性に関する科学的な情報や保健室で児童から直接得られる性に関する情報を、性に関する教育の計画立案に積極的に反映させる立場にある。担任とチームを組んで保健学習などの授業を行うこともできる立場でもある。例えば、今回のモデル授業案にあるように、性別に関するメディア・リテラシーの習得や身近に起こり得る暴力を社会構造として客観的にとらえさせる等々の取組へは担任と一緒に授業を組み立てることができるであろう。これは男女平等教育の推進につながるものでもある。

このような保健教育は、子どもたちが、固定的な性別役割分担意識が残っている地域社会、家庭、もしくは学校生活の中で、相手の性を尊重しつつ人間関係を築くための大切な要素の一つとなる。

この点からも、保健教育に携わる教諭は、子どもの心身の発達の背後にあるジェンダーによる偏見を見抜く社会科学の知識をもち、発達段階に応じた保健教育を行うことが大切である。

(3) ジェンダーの視点による相談活動

学校においては、児童一人一人とかわる上で、相談活動の際にもジェンダーの視点を持っておきたい。そして、相談内容の解決に向けては、直接児童の相談を受ける養護教諭自身の姿勢が大切である。

養護教諭の行う健康相談は心身の健康問題に関して専門的な立場から行われる。その職務の特質や保健室という場所から次のことがいえる。

- ・ 全校の児童を対象とするので、入学時から経年的に児童一人一人の性に関する心身の成長・発達を見ることができる。
- ・ 活動の中心となる保健室は、個人として、心を開いて話ができる場所である。
- ・ 児童は、特に心の健康問題を言葉に表すことが難しく身体症状として現れやすいため、問題を早期に発見しやすい。
- ・ 保健室頻回来訪者、不登校傾向者、非行や性に関する問題などを抱える児童と保健室で個別にかかわる機会が多く、児童個人の行動の背後にある家庭問題や交友問題等を個別に見ることができる。

- ・ 職務の多くは、学級担任をはじめとする教職員、学校医、外部ソーシャルワーカー、保護者等と連携して行われる。
- ・ 健康診断、救急処置などを通して児童の心身の健康状態を容易に把握でき、家庭での性別に対する考え方に起因する虐待や自傷行為等、異常事態を発見しやすい。

このように養護教諭は、個人としての児童の心身の健康問題を発見しやすく、また支援もしやすい立場にある。他の教職員と同様に、児童への言動は影響が大きく、ジェンダーに敏感な視点を持ってかかわることがとても大切である。

また、社会情勢としては、家庭における配偶者からの暴力（DV）や、児童虐待、性的被害などの問題も多様化している。

さらに今日では、G I D（Gender Identity Disorder：性同一性障害）当事者の約9割までが中学生までに性別違和感を自覚していて、特にF T M（Female To Male：生物学的性別が女性で性の自己意識が男性の事例）当事者では小学校入学時の約7割が性別違和感を持っていたという実態もあるので、G I Dについて理解を深めておくことも必要であると考えます。

それらの問題は、児童個人の問題ではなく、行動様式等が男か女かの二者択一的な考え方に縛られている社会構造的な問題であることを理解しておくことが大切である。養護教諭は、児童が傷ついたり固定的な性別役割分担意識が刷り込まれたりすることがないように配慮し、そして「あなたは悪くない」「あなたは大切な人です」というメッセージを贈ることができる存在でありたい。

以上のように学校においては、児童の抱える問題の背景にジェンダーに起因するものがないか、心の問題が身体の健康に影響を与えていないか、常に考える姿勢を持っておきたい。ジェンダーに関する社会的な情勢を知っておくこと、国、県、市の男女共同参画に関する法律や行動計画にも目を向けること、外部にどのような相談機関や支援者がいるかを把握しておくことなど、日頃から様々な方面にアンテナを張り新しい情報を得て、解決に向けてのしっかりとした対応ができる体制をつくっておくことが大切であると考えます。

（参考文献）

- 「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－」：日本学校保健会（2012） P65
- 「学校保健における性同一性障害－学校と医療との連携－」：中塚幹也（2010）：日本医事新報 No. 4521 P60～64

Ⅲ 資料編

男女共同参画関係用語

男女共同参画影響調査（以下、影響調査という）

影響調査とは、主に国及び地方公共団体の施策が男女共同参画社会の形成に及ぼす影響を調査することをいいます。また、社会における制度又は慣行が男女共同参画社会の形成に及ぼす影響に関する調査も含まれます。あらゆる施策や社会制度・慣行について男女共同参画の視点、ジェンダーに敏感な視点に立って見直そうとする「ジェンダー主流化」のための取組です。

男女共同参画社会基本法第22条においては、男女共同参画会議は、政府の施策が男女共同参画社会の形成に及ぼす影響を調査し、必要があると認めるときは、内閣総理大臣及び関係各大臣に対し、意見を述べることとされています。（基本法関連条文 第4条、第15条、第18条、第22条）

M字カーブ

日本の女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化したとき、30歳代を谷とし、20歳代後半と40歳代後半が山になるアルファベットのMのような形になることをいいます。これは、結婚や出産を機に労働市場から退出する女性が多く、子育てが一段落すると再び労働市場に参入するという特徴があるためです。なお、国際的にみると、アメリカやスウェーデン等の欧米先進諸国では、子育て期における就業率の低下はみられません。

間接差別

外見上は、性中立的な規定、基準、慣行等が、他の性の構成員と比較して、一方の性の構成員に相当程度の不利益を与え、しかもその基準等が職務と関連性がない等合理性・正当性が認められないものを指します。

クォータ制（割当制）

積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の手法の一つであり、人種や性別などを基準に一定の人数や比率を割り当てる制度のことです。

ジェンダー

「社会的・文化的に形成された性別」のことです。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）といいます。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。

ジェンダー主流化

あらゆる分野でのジェンダー平等を達成するため、全ての政策、施策及び事業について、ジェンダーの視点を取り込むことをいいます。ジェンダーと開発(GAD)イニシアティブにおいては、開発におけるジェンダー主流化を、「全ての開発政策や施策、事業は男女それ

ぞれに異なる影響を及ぼすという前提に立ち、全ての開発政策、施策、事業の計画、実施、モニタリング、評価のあらゆる段階で、男女それぞれの開発課題やニーズ、インパクトを明確にしていくプロセス」と定義しています。

なお、「ジェンダーと開発(GAD: Gender and Development)」とは、開発におけるジェンダー不平等の要因を、女性と男性の関係と社会構造の中で把握し、両性の固定的役割分担や、ジェンダー格差を生み出す制度や仕組みを変革しようとするアプローチのことです。

ジェンダー統計（男女別等統計）

男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計です。

ジェンダー（社会的性別）の視点

「社会的文化的に形成された性別」（ジェンダー）が性差別、性別による固定的役割分担、偏見等につながっている場合もあり、これらが社会的に作られたものであることを意識していこうとするものです。

このように、「ジェンダーの視点」でとらえられる対象には、性差別、性別による固定的役割分担及び偏見等、男女共同参画社会の形成を阻害すると考えられるものがあります。その一方で、対象の中には、男女共同参画社会の形成を阻害しないと考えられるものもあり、このようなものまで見直しを行おうとするものではありません。社会制度・慣行の見直しを行う際には、社会的な合意を得ながら進める必要があります。

ジェンダー予算

政策策定、予算編成、執行、決算、評価など予算の全過程に男女共同参画の視点を反映し、男女共同参画を促進するようにしていくことです。男女共同参画社会の形成に影響を与え得る全ての施策が対象となり得ます。「ジェンダー予算」に定まった手法は確立されておらず、各国で多様な取組が行われています。

性的指向

性的指向とは、人の恋愛・性愛がいずれの性別を対象とするかを表すものであり、具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛、同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛を指します。

セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）

男女共同参画会議女性に対する暴力に関する専門調査会報告書「女性に対する暴力についての取り組むべき課題とその対策」（平成16年3月）では、セクシュアル・ハラスメントについて、「継続的な人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動であり、それは、単に雇用関係にある者の間のみならず、施設における職員とその利用者との間や団体における構成員間など、様々な生活の場で起こり得るものである。」と定義しています。

積極的改善措置（ポジティブ・アクション）

「積極的改善措置」（いわゆるポジティブ・アクション）とは、様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくものです。

積極的改善措置の例としては、国の審議会等委員への女性の登用のための目標の設定や、女性国家公務員の採用・登用の促進等が実施されています。

男女共同参画社会基本法では、積極的改善措置は国の責務として規定され、また、国に準じた施策として地方公共団体の責務にも含まれています。

男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことです。

男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成11年6月23日法律第78号として、公布、施行されました。

配偶者からの暴力

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の一部を改正する法律」（平成16年6月2日公布、平成16年12月2日施行）では、配偶者からの暴力を「配偶者からの身体に対する暴力（身体に対する不法な攻撃であって生命又は身体に危害を及ぼすものをいう。）又はこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動（以下「身体に対する暴力等」という。）をいい、配偶者からの身体に対する暴力等を受けた後に、その者が離婚をし、又はその婚姻が取り消された場合にあつては、当該配偶者であつた者から引き続き受ける身体に対する暴力等を含むものとする。」と定義しています。

なお、内閣府においては、対象範囲に恋人も含むより広い概念として、「夫・パートナーからの暴力」という用語を使用する場合があります。ここで「夫」という言葉を用いているのは、女性が被害者になることが圧倒的に多いからです。

ちなみに、一般的に使用されている「ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）」や「DV」は、法令等で明確に定義された言葉ではありません。

北京宣言及び行動綱領

第4回世界女性会議で採択されました。行動綱領は12の重大問題領域にそつて女性のエンパワーメントのためのアジェンダを記しています。具体的には、〈1〉女性と貧困、〈2〉女性の教育と訓練、〈3〉女性と健康、〈4〉女性に対する暴力、〈5〉女性と武力闘争、〈6〉女性と経済、〈7〉権力及び意思決定における女性、〈8〉女性の地位向上のための制度的な仕組み、〈9〉女性の人権、〈10〉女性とメディア、〈11〉女性と環境、〈12〉女兒から構成されています。

ミレニアム開発目標

開発分野における国際社会共通の目標です。極度の貧困と飢餓の撲滅，初等教育の完全普及の達成，ジェンダー平等推進と女性の地位向上，乳幼児死亡率の削減，妊産婦の健康の改善などの8つの目標を2015年までに達成することを目指すものです。2000年9月に採択された「国連ミレニアム宣言」と，1990年代に開催された主要な国際会議などで採択された国際開発目標を統合し，一つの共通の枠組みとして2001年に国連によりまとめられました。

無償労働

賃金や報酬が支払われない家事，育児，介護，ボランティア活動等を意味します。

メディア・リテラシー

メディアの情報を主体的に読み解く能力，メディアにアクセスし，活用する能力，メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力のことです。

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議において提唱された概念で，今日，女性の人権の重要な一つとして認識されるに至っています。リプロダクティブ・ヘルス／ライツの中心課題には，いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由，安全で満足のいく性生活，安全な妊娠・出産，子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており，また，思春期や更年期における健康上の問題等生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されています。

ロールモデル

将来像を描いたり，自分のキャリア形成を考える際に参考する役割モデルをいいます。

「女性のチャレンジ支援策について」（平成15年4月男女共同参画会議意見）では，一人一人が具体的に自分にあったチャレンジをイメージし選択できるよう，身近なモデル事例を提示する重要性が指摘されています。

改訂版 小学校男女平等教育指導の手引 作成部員

■実践編

山 根 和佳子	岡山市立高島小学校教諭
宮 野 敬 子	岡山市立南輝小学校教諭
西 川 敦 規	岡山市立福渡小学校教諭
山 口 博 之	岡山市立西大寺小学校教諭
山 田 睦 世	岡山市立三勲小学校教諭
安 富 直 樹	岡山市立旭東小学校教諭
宮 本 裕 美	岡山市立芳泉小学校養護教諭

■理論編, 実践編, 資料編

角 田 みどり	中国短期大学教授
保 坂 雅 子	岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室助教
岡山市教育委員会指導課	
岡山市市民局男女共同参画課	

改訂版 小学校男女平等教育指導の手引

平成25年3月

岡山市教育委員会指導課

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1

電話 086-803-1591